令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

令 和 3 年 10 月

枚方市立津田小学校

文部科学省が今年５月に実施した令和３年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、保護者の皆様には生活習慣の確立や家庭学習の定着などについてご協力をお願いいたします。

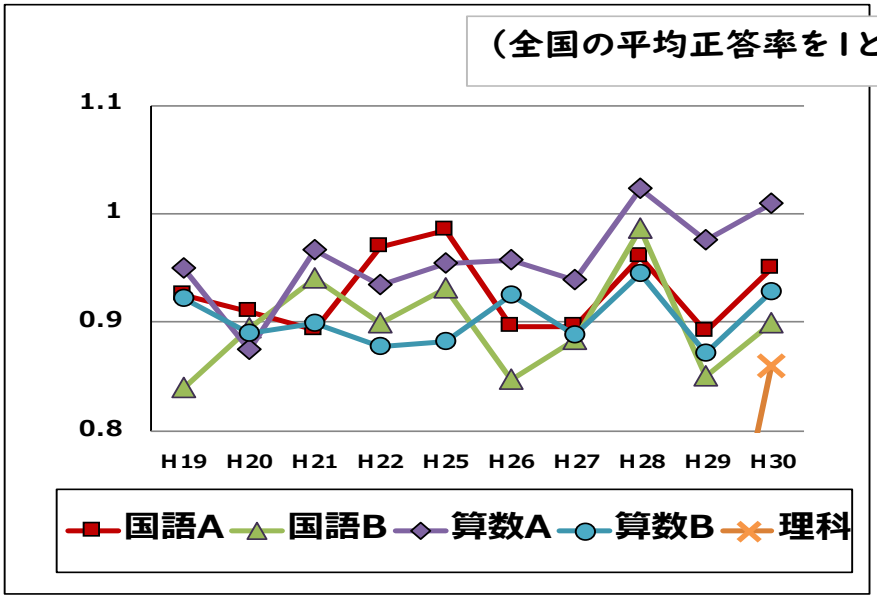
【全体概要】

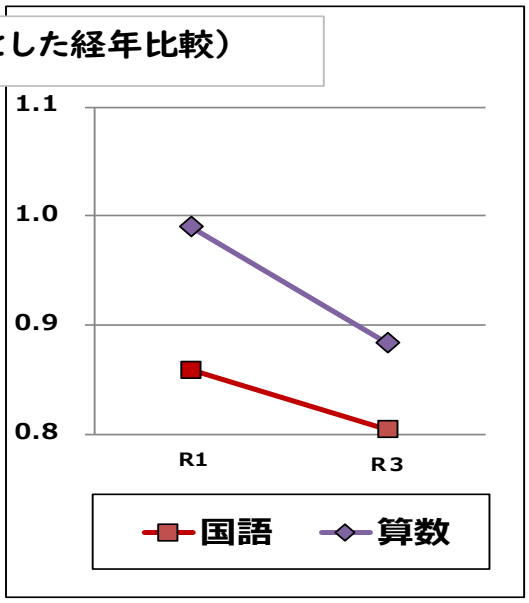
※調査結果について・・・教科や出題範囲が限られていることから、本調査により測定できるのは、学力の一部となります。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全体比）をお知らせします。

（令和元年度よりＡ・Ｂ問題が一体化されましたので、グラフを分けています。）





＜学力調査結果の概要＞

〇国語について

➔記述式の問題において、字数制限やキーワードを入れるなどの条件がある中で、主語と述語の関係に気をつけながら、必要な言葉を取捨選択して要約する力に課題がある。日頃から学習活動において、様々なジャンルの文章に触れ、内容を要約して書く場の設定が必要である。

事例、感想、理由、主張など、自分がどのような意図、意味をもって書いているか意識させる。また、自分が伝えたい文章になっているか読み返すよう、児童への声かけとともに、習慣化させる必要がある。

〇算数について

➔文章問題を解くことに慣れ、文意から図や絵、式を書き、線を引くなどして、何を問われているのかを理解して解くこと、また、自分の言葉で解き方や考え方を説明する（書く）力が必要である。 四則計算においては、何度も継続して繰り返し練習することが大切なので、朝学習や家庭学習等において、毎日、短時間で取り組ませたい。

〇国語・算数ともに、問われている内容を理解し、道筋を立てて解く力、考える力を身につける必要がある。

※本調査は、平成 19 年度から実施されています。

※平成 23 年度・令和 2 年度は中止、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

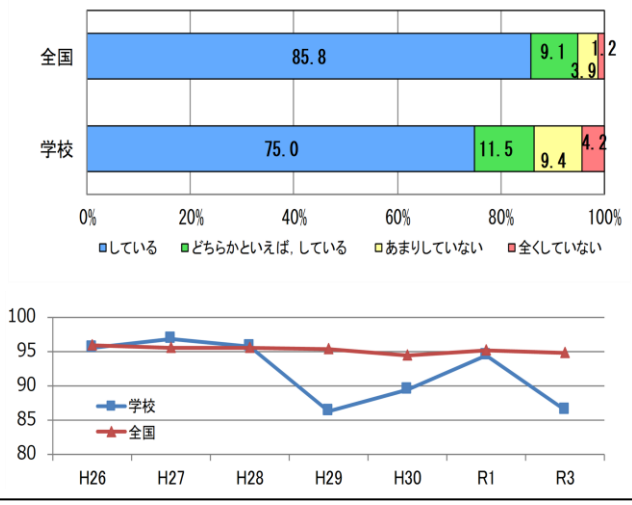
質問紙調査の結果

▲・・・全国
■・・・津田小

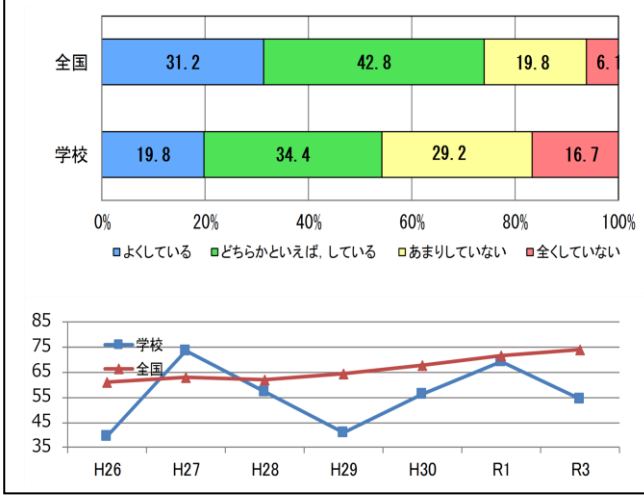
質問紙調査の主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

※帯グラフは、左から「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」（肯定的回答）の合計数値です。
※無回答もあるため、帯グラフの合計数値が「１００」にならない場合もあります。

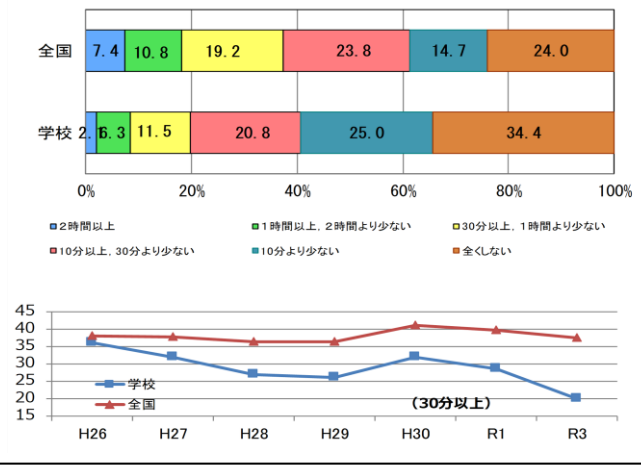
朝食を毎日食べている。



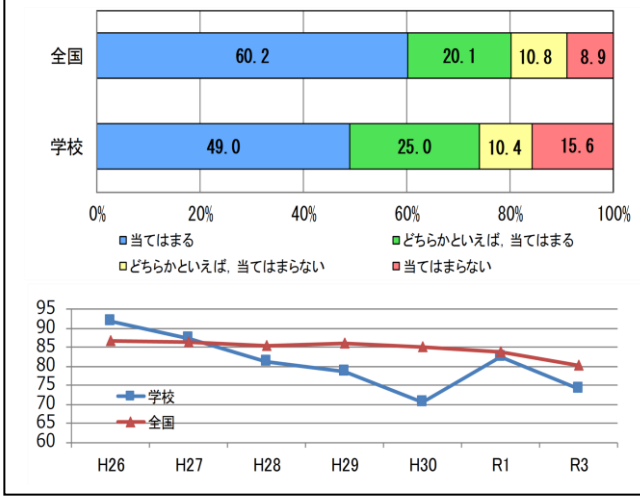
自分で計画を立てて勉強している。



学校の授業時間以外に、普段、１日あたり、読書する時間（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）



将来の夢や目標を持っている。



＜質問紙の概要＞

掲載している以外の項目においても、全国より肯定的（好ましい）回答が下回っている。生活習慣の基本の１つである「朝食を摂ること」、学習をする上で大切な「自主的、主体的に学習すること」、語彙力、想像力等の向上のための「読書」について、全国比「１０ポイント以上」下回っている現状を改善すべく、学校と家庭が強く連携した取り組むことが重要である。

まとめ

本校では、全国と比較すると将来に夢や目標を持つ児童の割合が低いことなどから、自己肯定感・自己有用感を高めるための生活指導・学習指導をより充実させ、推進していくことが必要である。市としても取り組んでいる将来に向けて職業人としての能力開発や、自分がいかに主体的に生きていくかを学ぶ「キャリア教育」についても、児童の発達段階に応じた取組を系統的・横断的に推進していきたい。

【詳細について】

教科に関する調査

＜国語＞

国語については、すべての問題において、全国を下回る結果だった。漢字の読み書き、語彙力、作者や話者が何を伝えようとしているのか、読んだり、聞いたりして意味や要点を知るなど、国語の授業を中心に、全教科において、学ばせる必要がある。そのために、まずは、日頃から「読書」「読み書き」を繰り返し、徹底させていく。

成果や課題があった設問

【成果】

面ファスナーに関する「資料」の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する。

相川さんが読んだ【資料】の文章は、何について、どのように書かれていますか。その説明として最も適切なものを、次の１から４までの中から１つ選んで、その番号を書きましょう。

１　面ファスナーの開発と広がりについて、時間の経過にそって書かれている。
２　面ファスナーの長所と短所について、それぞれの事例が交互に書かれている。
３　面ファスナーの長所と短所について、一つの事例が取り上げられて書かれている。
４　面ファスナーの開発と広がりについ、筆者の問いとその答えがくり返し書かれている。

	正答率	無回答率
本校	81.3	0
全国	87.5	0.3

（考察）

全国と比較しても正答率の差が比較的小さく、初めて出会った説明文の問題ではあるが、解答の仕方が「4 択」という比較的に取り掛かりやすい設問ということから、無回答率が「０」だった。このことから、児童が本調査に一生懸に取り組み、自分なりの答えを導き出せたことがわかる。

また、解答に合うキーワードを見つけたり、そぐわない言葉や文章から消去法で考えたり、色々な側面から考えることができたことも、これまでの学習の成果と考える。

【課題】

丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する。

丸山さんが考えた【文章の下書き】の構成についての説明として最も適切なものを、次の１から４までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

１ 自分の主張を最後の段落に書くという構成にすることで、読み手が主張と事例との関係を考えながら読み進められるようにしている。
２ 自分の主張を最初と最後の段落に書くという構成にすることで、自分の主張する内容を強調している。
３ 自分の主張を最後の段落に書くという構成にすることで、読み手が主張を予想しながら読み進められるようにしている。
４ 自分の主張を最初と最後の段落に書くという構成にすることで、複数の異なる内容の主張を伝えている。

	正答率	無回答率
本校	41.7	3.2
全国	64.8	2.1

（考察）

全国と比較して正答率の差が大きく、無回答率が高い。無回答に関しては、設問が最後の方にあったということもあり、時間内に間に合わなかったとも予想される。初めて出会う文章や問題は、初めから最後まで読み流すことや、考えがまとまらず解答に時間がかかりそうになってしまった問いに関しては、後回しにするなど、テストを受ける際のポイントとして、予め指導・練習して慣れる必要がある。

また、どこに筆者の言いたいことが書かれているのか、どんなことを言いたいのか「要旨」を捉えるところにも課題がある。

＜算数＞

算数については、全国より上回る項目があったものの、全国比10ポイント以上、下回る項目が多かった。単に計算をして答えを求めるだけではなく、答えを導き出すまでの「過程」について説明をする点に大きな課題がある。この点について、自分の考えを文にしたり話したりする表現力、なぜそうなるのかを考える思考力を伸ばす必要がある。日頃から、「なぜ？」と問い、自分で試行錯誤しながら答えを導き出すような学習も、徹底していく。

成果や課題があった設問

【成果】

学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフからわかることを選ぶ。

９月の貸し出し冊数について、左のグラフからどのようなことがわかりますか。下のアからエまでの中から、最もふさわしいものを１つ選んで、その記号を書きましょう。

ア　貸し出し冊数がいちばん多い学年は、２年生である。

イ　２年生の貸し出し冊数は、３年生の貸し出し冊数の約２倍である。

ウ　５年生の貸し出し冊数は、４年生の貸し出し冊数の半分くらいである。

エ　１年生と３年生の貸し出し冊数の差は、約２００冊である。

	正答率	無回答率
本校	92.7	0
全国	90.7	0.4

（考察）

全国と比較しても正答率が大きく上まっていること、無回答率が「0」ということから、児童の問題を解こうとする意欲と、「表」を読む力があることがわかる。

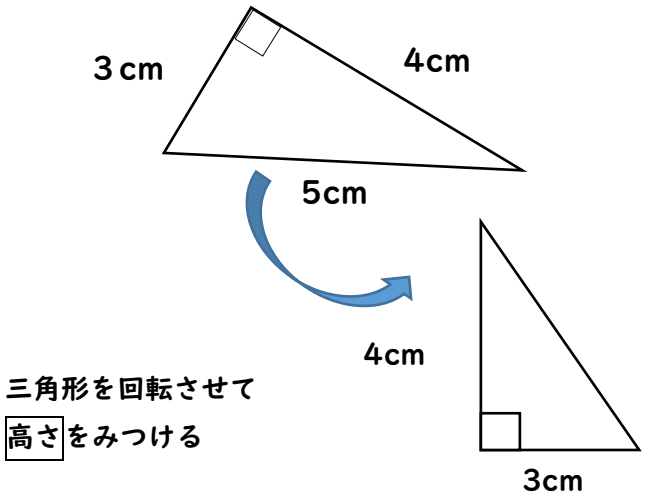
アからエの条件（選択肢）に沿って、問いと照らし合わせていくとひとつひとつの選択肢の正誤がわかり、答えが見えてくる。

国語と同じく、消去法で解答を導いていくことも重要である。

【課題】

直角三角形の面積を求める式と答えを書く。

図１の直角三角形の面積は何㎠ですか。
求める式と答えを書きましょう。



三角形を回転させて
高さをみつける

	正答率	無回答率
本校	30.2	0
全国	55.1	1.6

（考察）

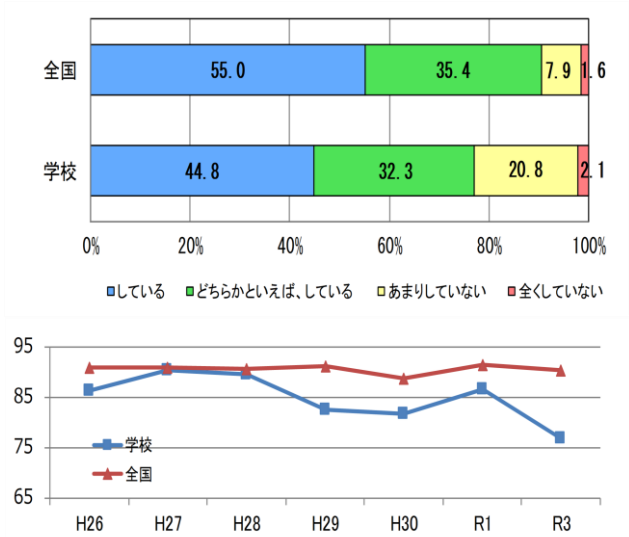
左図のようなシンプルな直角三角形の面積を求める問題である。ほとんどの児童が【三角形の面積を求める公式】は認識できており、それにあてはめて解答していた。

しかし、この問題の「高さを見つける」「底辺を見つける」というポイントが押さえられておらず、見たままに＜5cm＞の辺を底辺として捉え、計算する児童が圧倒的に多かった。この設問は全国的にも正答率が低く、【高さをみつける】ということと物事を多角的・多面的にとらえることを徹底させたい。

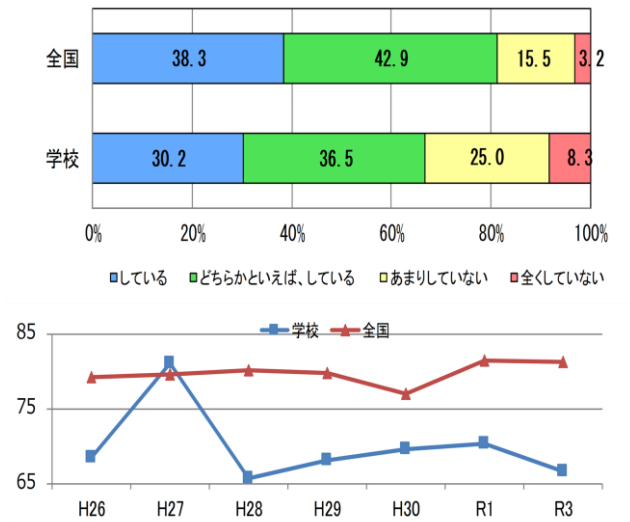
質問紙に関する調査

Ⅰ. 生活習慣について

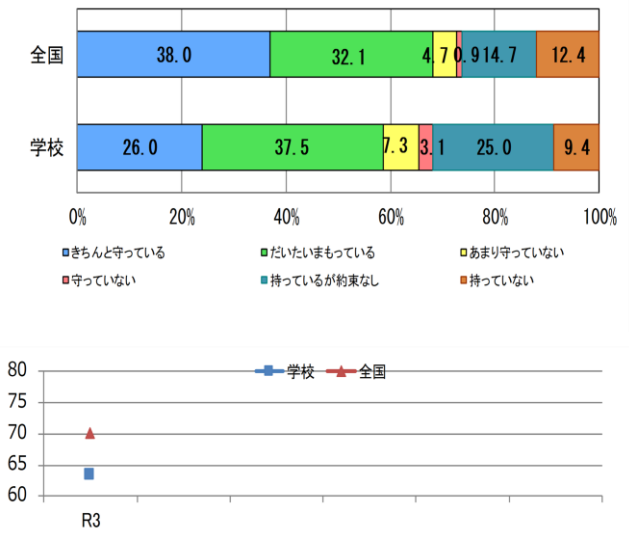
同じくらいの時刻に起きている。



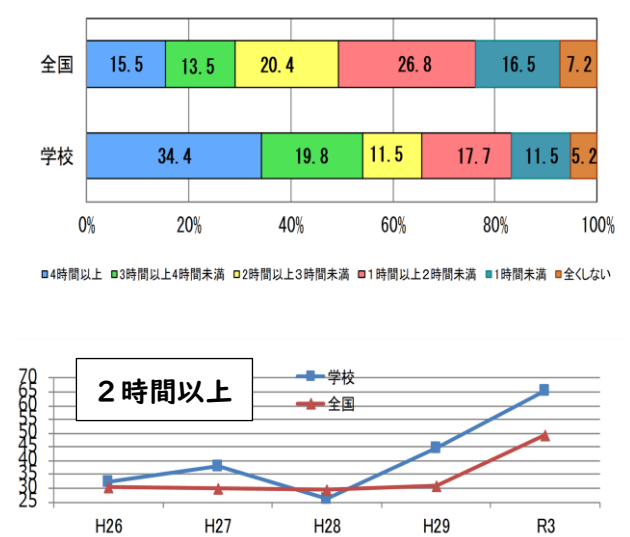
同じくらいの時刻に寝ている。



スマホ等の使い方、家の人との約束を守っている。



月～金、１日あたりのテレビゲーム等の使用時間

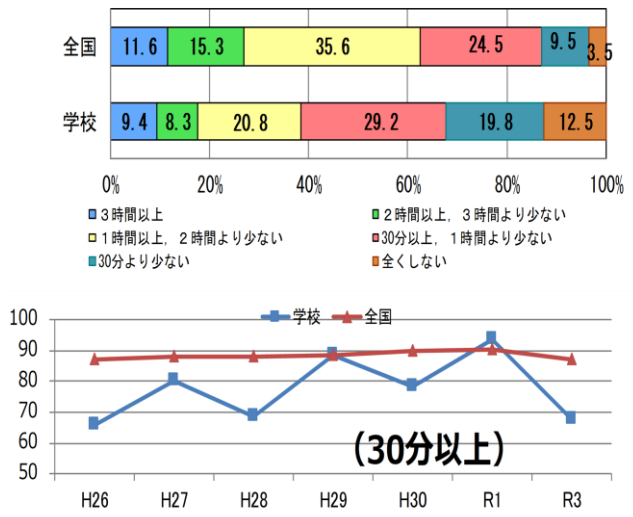


【考察】

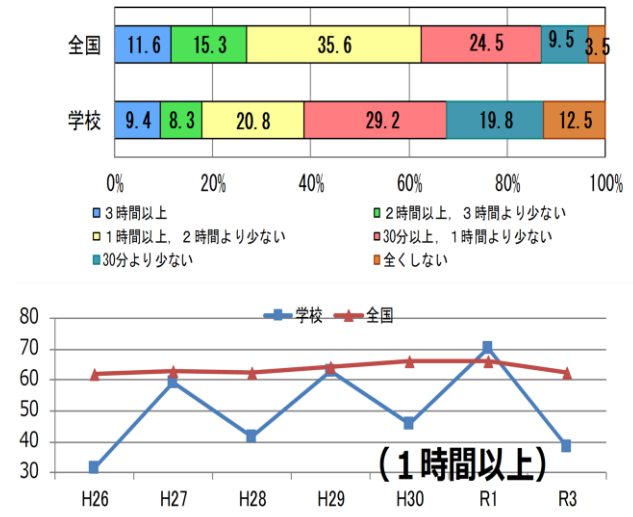
すべての項目において、全国よりも肯定的（好ましい）回答が下回っている。特に、月～金曜日に、１日あたり２時間以上、スマホや携帯式ゲーム等をしている児童が約６５％、このうち、１日あたり４時間以上の児童が約３５％おり、スマホや携帯式ゲーム等の使用時間の長さと朝食を摂る児童の割合、就寝・起床時刻に係る割合に因果関係があると考えられる。スマホ等の使い方について約６５％の児童は約束を守っているが、これらの使用時間とともに、規則正しく健康的な生活について、家庭において指導いただけるよう、協力をお願いする必要がある。

2. 家庭学習について

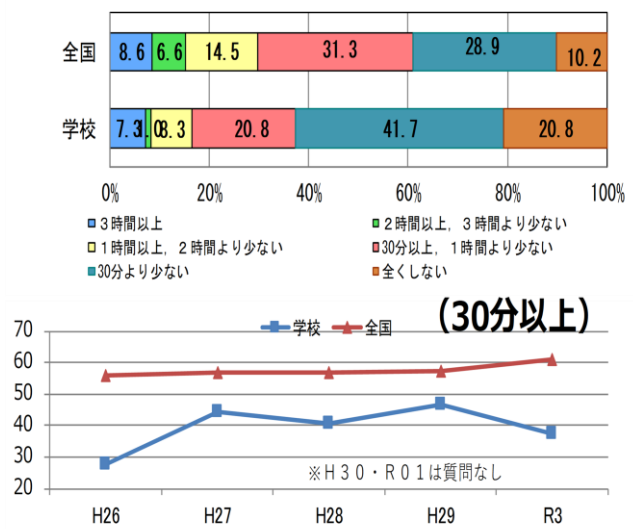
授業時間以外の平日の１日あたりの学習時間



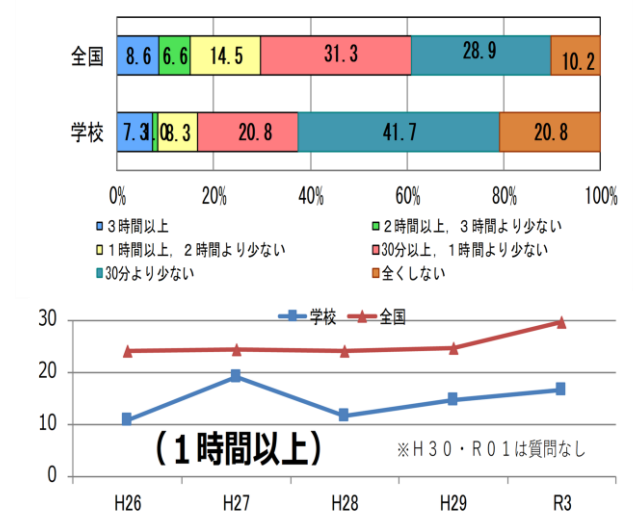
授業時間以外の平日の１日あたりの学習時間



学校が休みの日の１日あたりの学習時間



学校が休みの日の１日あたりの学習時間



【考察】

先にも記述したとおり、平日（月～金）に１日あたり２時間以上、スマホや携帯式ゲーム等をしている児童が約６５％いる。このうち、４時間以上の児童が約３５％いる。

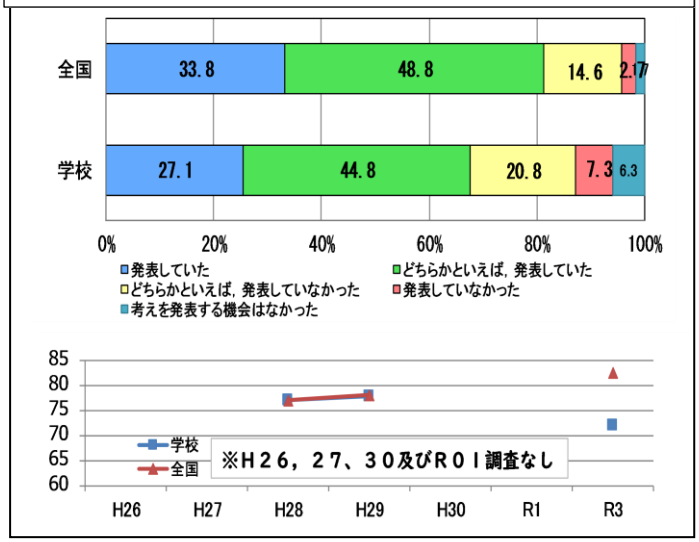
平日に３０分以上、家庭学習をしている児童は約７０％いるものの６年生の目安としている１日１時間以上の児童は約４０％だった。また、学校が休みの日に１日３０分以上、家庭学習をしている児童は、約４０％で、１時間以上の児童は２０％に満たず、全国比で１０ポイント以上下回っている。

スマホや携帯式ゲーム機等の使用時間と生活習慣及び家庭学習の因果関係は大きく、スマホや携帯式ゲーム機を使用する時間等について、家庭におけるルールを見直すとともに、家庭においても学習に向かう環境整備を、保護者にも呼びかけ、協力をしていただく必要がある。

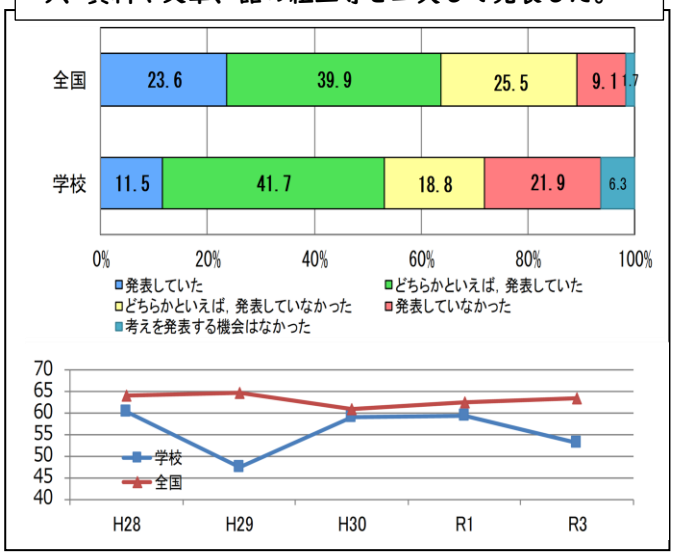
さらに、単に学習面だけでなく、児童の健康面についても、スマホや携帯式ゲーム機等の使い方等について、児童自身に考えさせる必要もある。

3. 授業改善について

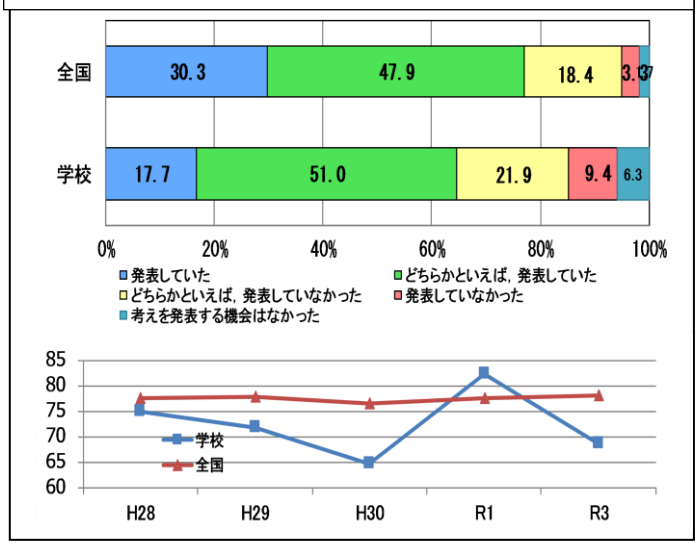
話し合い活動で、内容を理解し、相手の考えを最後まで聞き、受け止めた上で自分の考えをしっかりと伝えていた。



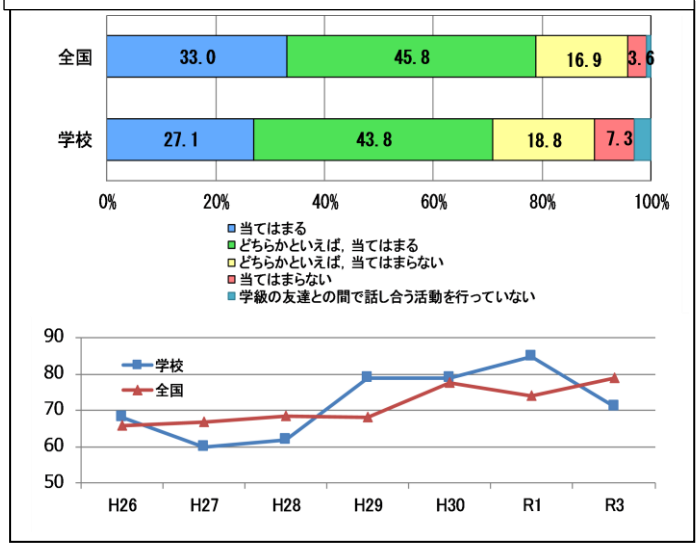
自分の考えを発表するとき、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立等を工夫して発表した。



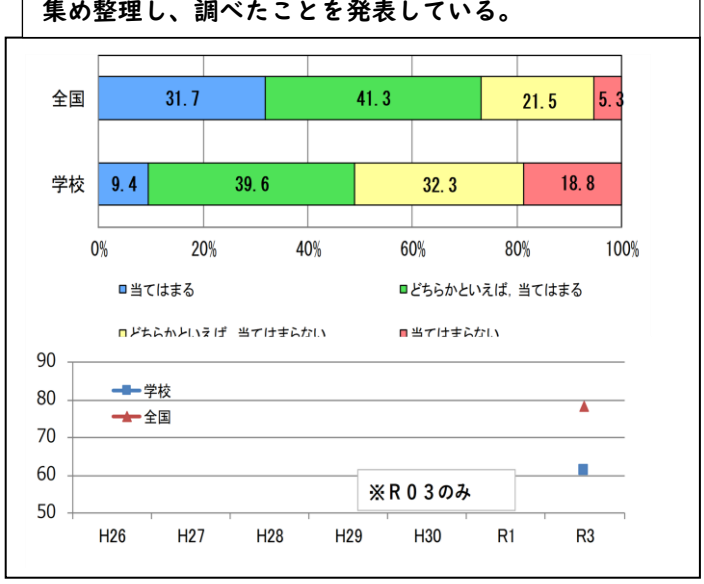
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。



学級の友だちと話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりしている。



総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて、情報を集め整理し、調べたことを発表している。

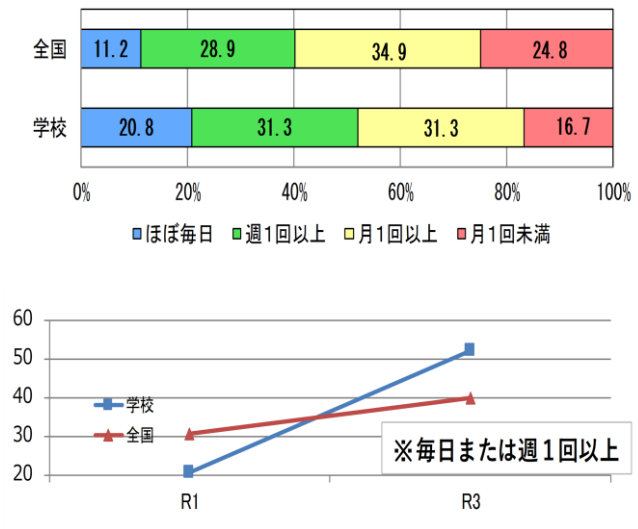


【考察】

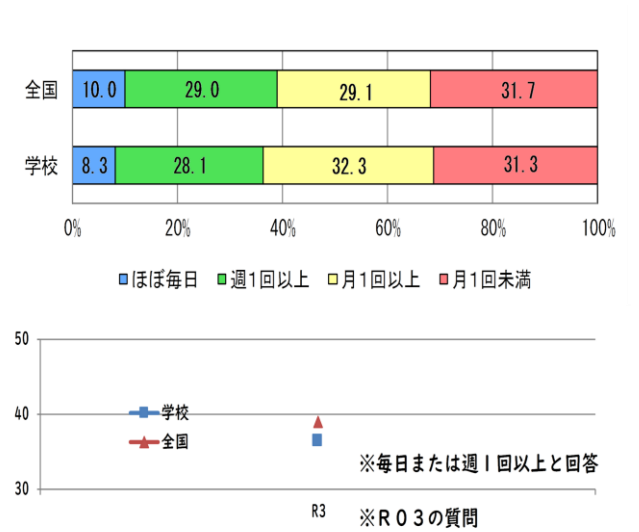
本校において、「自分の考えを発表すること」「課題解決に向けて自分で考え取り組むこと」「友だちの考えを聞き、考えを深めたり、広げたりすること」について、前回より「難しい」と感じている児童が増えた。これらは、全教科における学習活動を通し、児童に「どのような力をつけさせたいか」と教員主導の授業ではなく、児童自身が「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」と、「自ら学ぶ力」を教員が支援・指導する授業づくり、授業改善を念頭に置き、取り組む必要がある。現行学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」について、教員が研究を深め、児童の学力向上をめざす必要がある。

4. ICTの活用について

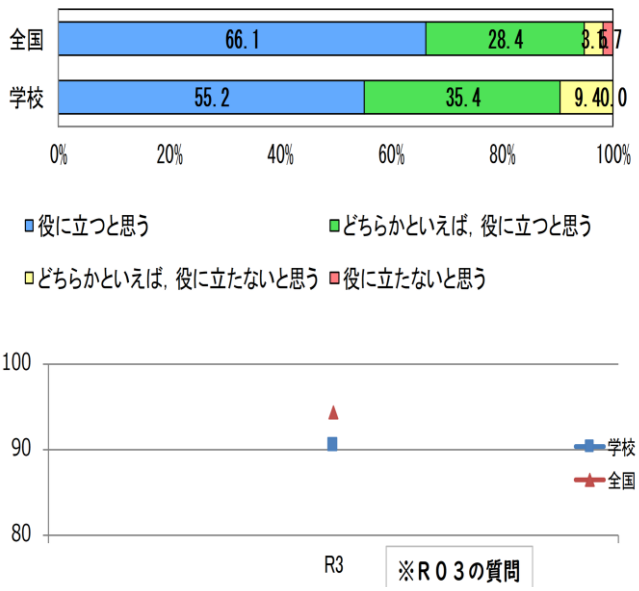
５年生までに受けた授業で、コンピュータなど、ICT 機器を毎日または週１回以上は使っていた。



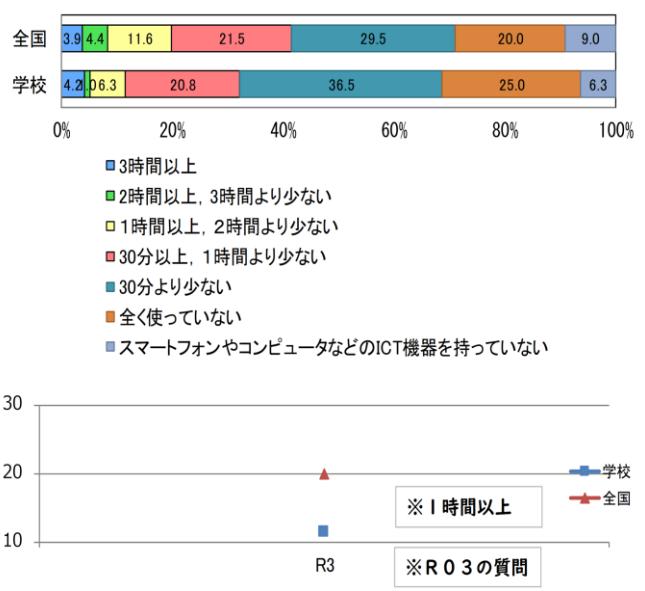
ICT 機器を他の友達と意見を交換したり、調べたりするために毎日または週１回以上使っている。



ＩＣＴ機器を使うのは、勉強の役に立つと思う。



普段（月～金）、１日あたり１時間以上、ＩＣＴ機器を勉強のために使っている。



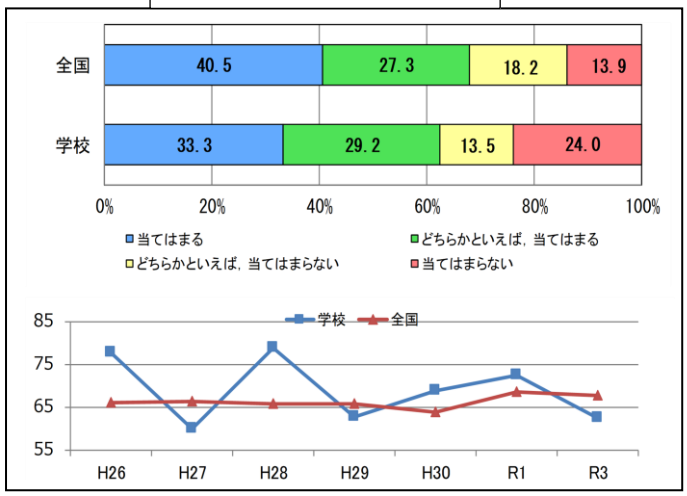
【考察】

児童は、１人１台配付されたタブレットを使って学習することに意義を感じ、また、タブレットを使い、仲間と意見を交換したり、調べたりすることについても、約４０％の児童が「活用している」と実感している。タブレット等のＩＣＴ機器を使用していると実感のある児童は、全国を上回り、半数以上いる。

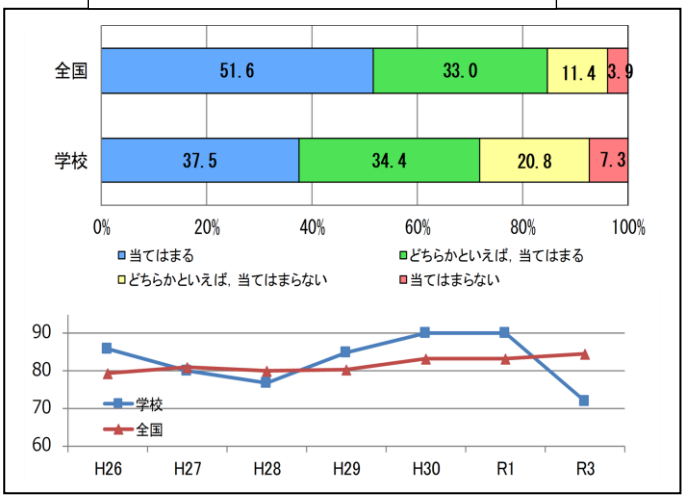
ただし、普段１日あたり１時間以上、タブレット等のＩＣＴ機器を使って勉強している児童は約１０％であり、家庭においてタブレットを活用しての自主的な学習が進んでいないと読み取れる。今後は、学校から課される宿題以外で、児童が自主学習でタブレットをより活用できるよう指導・支援していく必要がある。まずは、児童が自主学習としてタブレットドリル等を使用する「しくみづくり」から始める必要がある。

5. 算数の授業について（校内研修テーマ：「もっと学びたい」～ひとりひとりが課題に向き合い、自分や友だちの考えを通して学びを深めよう～」

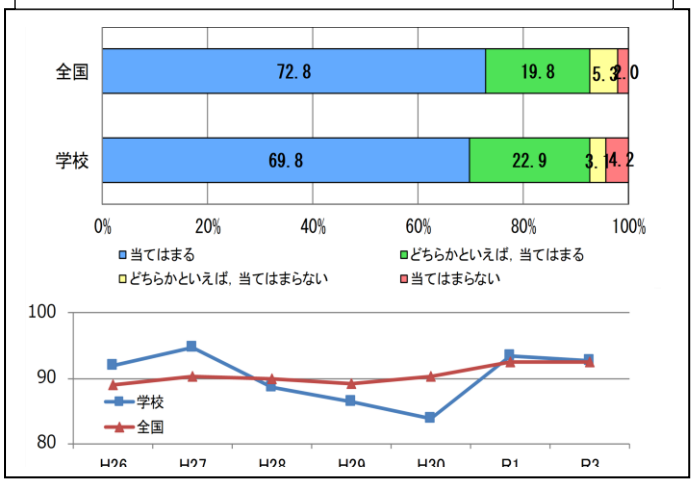
算数の学習は、好きだ。



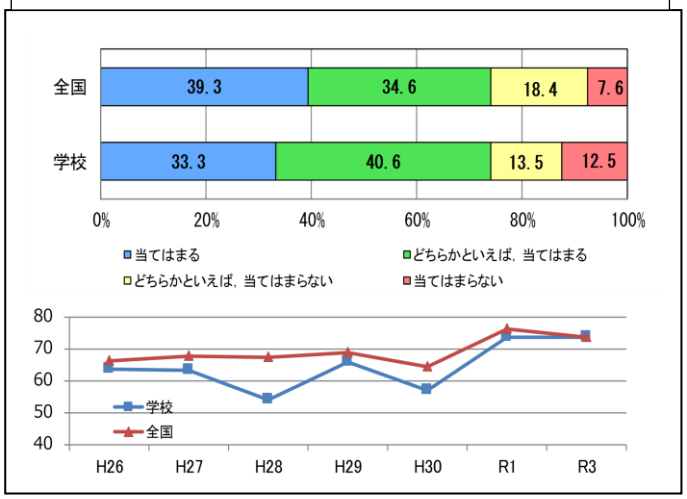
算数の授業の内容はよく分かる。



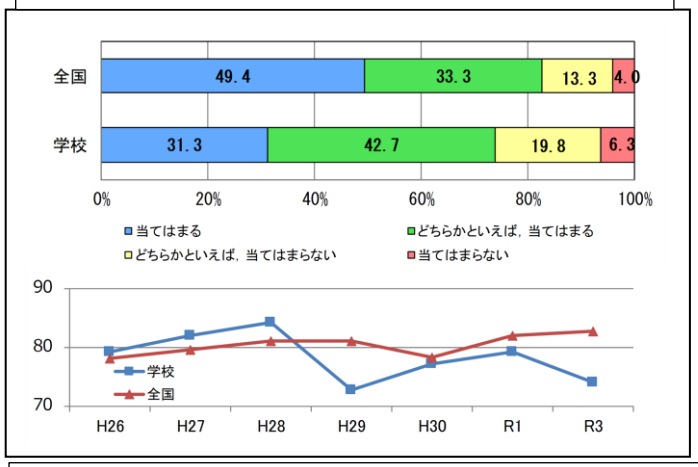
算数で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



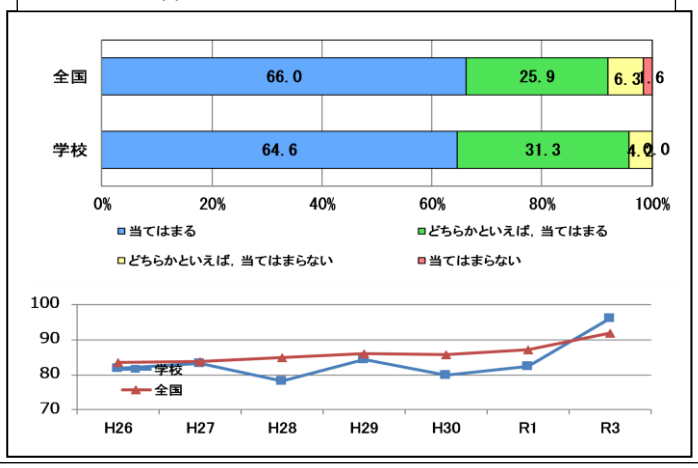
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。



算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。



算数の授業で，問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。

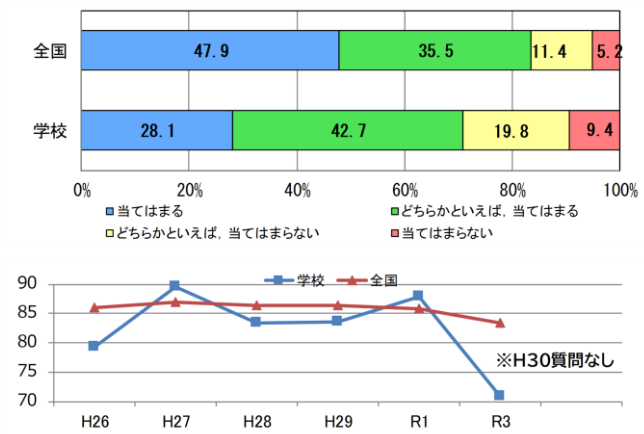


【考察】

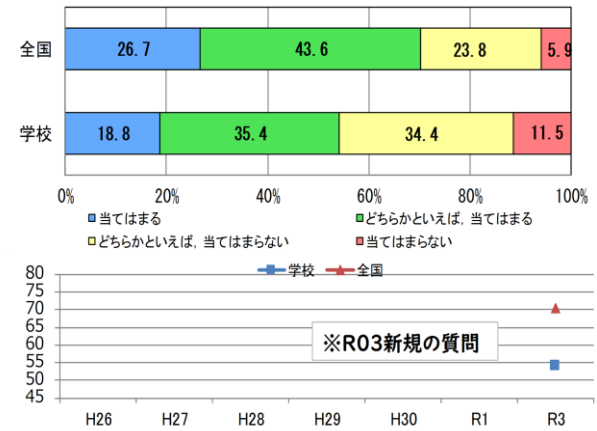
算数の問題の解き方が分からなくても、あきらめずに取り組む児童は約７５％。「４人に１人は、あきらめてしまう」という結果である。単に「答えを出す」ことが目的ではなく、出会った問題や課題に対し、どのような姿勢で挑むのか、取り組むのかということを、学習を通して児童に知らしめることも必要である。そのためには、「授業内容がわかる」「問題が解けて楽しい」と児童が実感できるような授業づくりを教員が実践すること、児童が「できた」という成功体験を積ませていくことが必要である。

6. 学校生活について

学校に行くのは楽しい。



自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる。

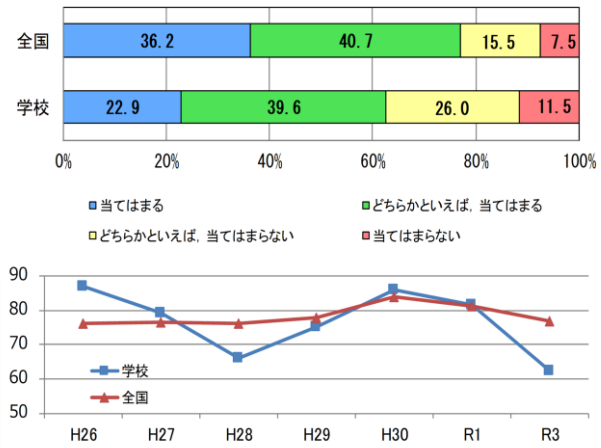


【考察】

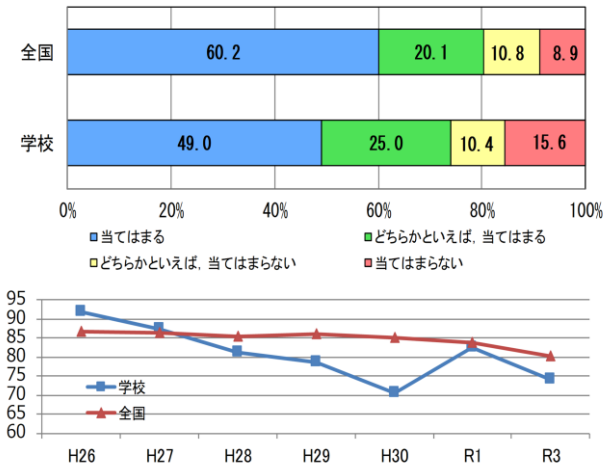
一昨年度と比較し、１５ポイント以上も下がっている。また、自分の考えや思いを言葉で表すことができる児童は約５５％である。何かしらの思いを持ちつつも、言葉で表現することなく、登校している児童がいることが考えられる。

7. 自己肯定感・自己有用感について

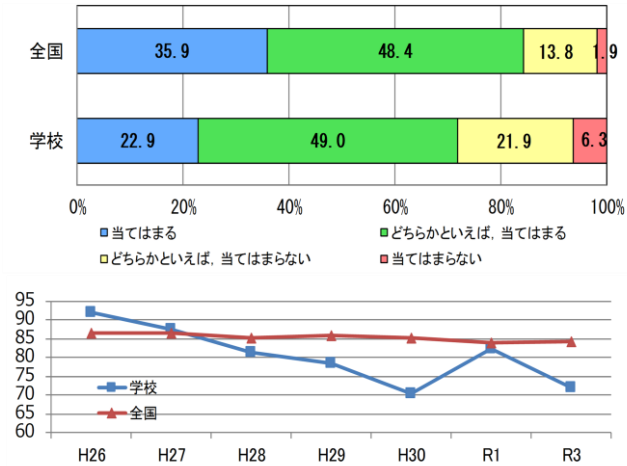
自分には、よいところがあると思う。



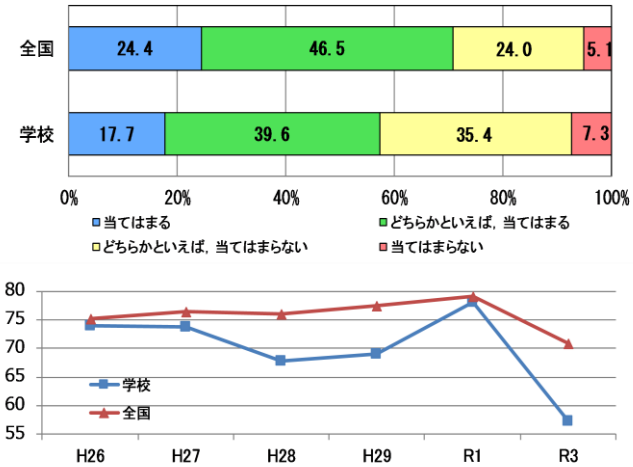
将来の夢や目標を持っている。



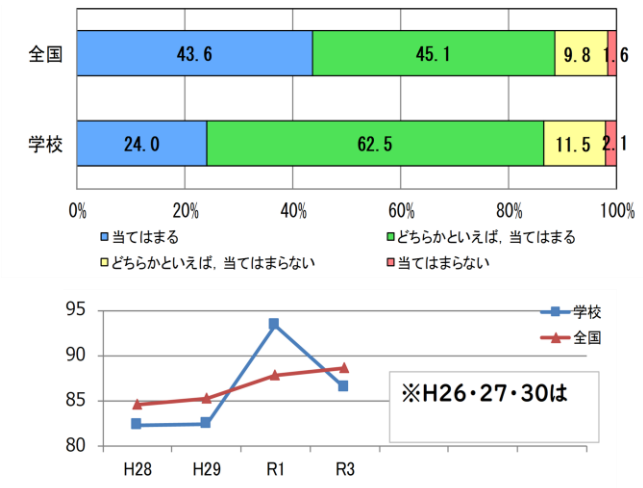
自分で決めたことはやり遂げようとしている。



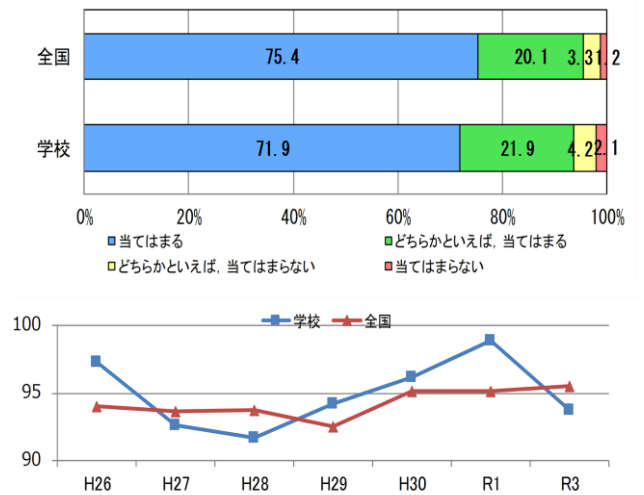
難しいことでも失敗を恐れず挑戦している。



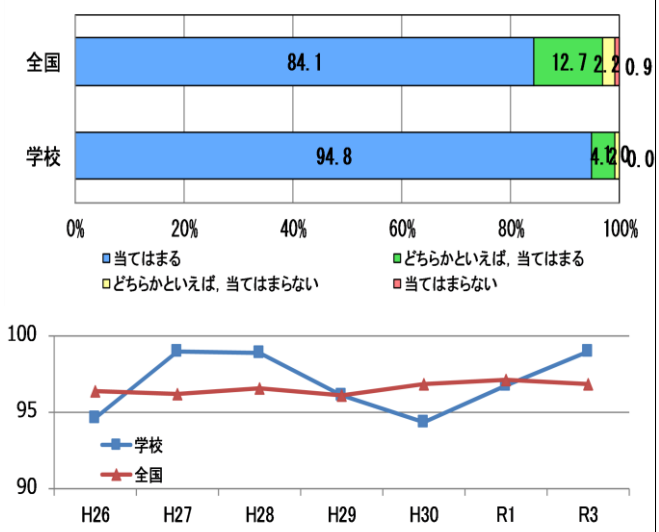
人が困っているときは、進んで助けている



ひとの役に立つ人間になりたいと思う。



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。



【考察】

「自分によいところがある」と言い切った児童は約 22%で、肯定的回答の割合（約６０%）でみると、一昨年度の児童より２０ポイントも下がっている。コロナの影響か定かではないが、「自信がない」と感じている児童が多いと思われる。また、「やりとげようとする」「失敗を恐れず挑戦する」については、全国比で１０ポイント以上、下回っており、これも「自信のなさ」から消極的になっているものと考えられる。

学校生活において、学習活動とともに、友だちや仲間とともに様々な体験、経験をし、学校、家庭、地域において「ほめられる」「認められる」経験を多く積ませ、児童の自己肯定感や自己有用感を向上させたい。

分析結果を踏まえて、今年度中に取り組んでいくこと

（1）授業改善について

①「めあて」を明確にし、児童自身が「今日は何を学習しているのか」を意識できるようにする。

②授業のおわりに、「めあて」に対し、児童自身が「何が分かったか（分からなかったか）」「次は何を学ぶのか（学ぶ必要があるのか）」等について「メタ認知」できるようにする。

③教員は、児童に「何を学ばせたいのか」を常に意識し、「逆向き設定」の授業づくりを徹底する。（教員が授業の展開の見通しをもつ）

④タブレット等のICT機器、学校図書館を活用し、児童が主体的に学ぶ場の設定を「意図的に」する。

（2）家庭学習について

①家庭学習の時間に影響を及ぼしているであろう「スマホや携帯式ゲーム機等の使い方」について、家庭における約束事を見直していただく。

②宿題とともに、タブレットドリル等を活用した「自主的な学習の仕方」について、児童に指導する。

❀「できたこと」「頑張っていること・頑張ったこと」等、児童のキラリ☆と光る部分を褒め、認めて、児童一人ひとりの「やる気スイッチ」を入れていく。 → 保護者の皆様、地域の皆様のご協力も、よろしくお願いします。